

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	広島市立大学	整理番号	1-3-053
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	コロンブスの卵的発想による英語教育改革 ーネットワーク型集中英語学習プログラムによる効果と効率の追求ー		
申請単位	大学全体		
申請担当者	青木 信之		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は、過去 5 年間の実施で多大な効果がみられたネットワーク型英語集中プログラムを基に英語カリキュラムを改組し、英語教育における効果と効率を上げようとするものである。</p> <p>具体的には、1) 学生全体の英語力を国内大学トップレベルに引き上げる、2) 上位 10%の学生をより高度な英語の使い手に養成する、3) 上記 2 つの目標を現状の教員体制及び単位数で達成することを目標とし、以下の方策を実施する：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語科目を教師が直接指導する「指導科目」と直接指導を必要としない「訓練科目」に分ける。 ・訓練科目にはネットワーク型プログラムを利用する。 ・ネットワーク型プログラムの利用により生じた余剰人員をすべて指導科目担当に振り向け、5 名程度の少人数クラスを実現し、実践的コミュニケーション訓練を行う。上位 10%のクラスは Super English Class と位置づけ、さらに高レベルな指導を行う。 			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、広島市立大学（国際学部・情報科学部・芸術学部・大学院前期課程・大学院後期課程）の教育・研究の目標を「高度情報化社会の中で科学技術の発展をリードする独創性と、社会文化、芸術文化によって培われた知性、感性、創造性を備え、世界と地域に貢献する人材の育成」と定め、平成 10 年から全学的に取組んできています。</p> <p>教育目標達成のための CALL システムを活用し、具体的でわかりやすいプログラムと数値目標を掲げ成果を上げていることを評価いたします。</p> <p>大学英語教育の抱える「学習時間の絶対的不足」と「実際的なコミュニケーション能力を養成できない」という 2 つの根本的問題点を大規模な人的及び予算的措置なく現行の教員体制で解決できる画期的な取組です。</p>			